

## 岡山県大連ビジネスサポートデスクレポート(2009年11月号) 東北地区のウィンタービジネス

11月中旬、大連を含む遼寧省に初雪が降りました。省内では15本2,838kmの高速道路が凍結し3,899トンもの融雪剤が使用されました。瀋陽空港は閉鎖され、車のスリップ事故などが新聞紙面を賑わせました。東北地区では、大連は比較的温暖で住みやすい気候とされていますが、それでも最も寒い時には氷点下7～8 となります。海に面しているため風が強く、乾燥していることから体感温度は更に低くなります。



< 地元紙ではスチーム供給開始が一面に  
同日の天気予報では 防寒を呼びかけ >

東北地区では「暖気」と総称されるスチーム式の公共暖房が供給され、冬場は原則として室内を16～18 以上に保つよう行政により規定されています。

大連であれば11月15日から翌年3月15日までの4ヵ月間、瀋陽であれば11月1日から4月1日までの5ヵ月間と、各地の事情に合わせて期間が決められています。暖房にかかる費用は、入居者とその勤務先が負担します。室内は特に乾燥するため加湿器は必需品で、家電量販店の売場には、遊び心をくすぐるデザインの加湿器が並び、100元前後から1,000元前後のものまでと多種多様です。

今年は新型インフルエンザの影響もあってか、食品安全問題から一躍注目をあびるようになった豆乳製造ミキサーや浄水器と同じく、空気清浄機能が付いたものがちょっとした売れ筋製品となっています。また、公共暖房だけでは寒さに耐えられない場合は、個人で暖房機器を購入しますが、電気ストーブや扇風機型のハロゲンヒーターなど、大きさや種類が様々あり、どれを買おうかと少々戸惑うくらいです。

大連市民の外出時の服装は、ダウンジャケット、マフラー、手袋、帽子が基本で、女性であればブーツ着用となりますが、開放的で人付き合いを好む土地柄を反映し、寒さの厳しいこの季節でも、意外に多くの人出があります。ウィンタースポーツの代表格といえばスキーですが、大連近郊に数カ所あるスキー場は11月下旬にオープンし、毎年多くの観光客で賑わいます。逆にゴルフ場や釣り場は一転閑散とした雰囲気になり、冬の訪れを感じさせます。火鍋（中国式鍋料理）をつつきな

11月下旬には一時的に暖くなったものの濃霧が発生したため、高速道路は全て閉鎖、一般道路では20メートル先がかすむ状況とあって、普段豪快なハンドル操作を見せるタクシーも徐行運転で、まさに「霧の都、大連」の名にふさわしい光景でした。毎年、この時期は気流や霧の関係でフライトスケジュールが狂いやすいため、ご出張の際には余裕を持ったスケジュールを組む必要があります



< カラフルな室内加湿器売り場 >

がらアルコール度数が 50 度以上ある白酒を飲み、寒さを吹き飛ばす勢いで会話する庶民の姿は、まさに東北の冬を代表する風景でしょう。（写真は日中経済貿易センター大連代表処提供）



< 扇風機ならぬ暖房器 >